研　　修

精神科専門病院スタッフとして職種を問わず、誰でも患者に基本的な知識・技術を提供することが重要であると考えています。そのため、毎月職員の勉強会（Evening Studies）を開催しています。

※Evening Studies：院内研修の名称。業務終了後の17時15分より職員へ自主的な知識・技術獲得の機会を提供。環境を整えることによって、個々の医療スタッフとしてスキルアップを図っている。

「新規採用者研修」

恵生会の理念や接遇など、社会人としての基本的な考え方から互助会の活動まで幅広い内容の講義を行っています。

「看護技術研修・防災研修」

実際に人形を用いて心肺蘇生とAED使用を実践しました。緊急時の対応を学ぶことで的確な判断力を養い臨床実践能力の向上を図っています。防災研修では院内の避難経路の確認、放水訓練を行いました。

「精神病急性期からの離脱法」

講師：社会医療法人公徳会佐藤病院
顧問　計見一雄先生

精神科急性期の第一人者である計見先生より、なぜ急性期治療が必要であるのか、また、精神科急性期の医療として重要なことを教えて頂きました。患者が元のように地域で暮らせるよう、段階に合った関わりをして行く事、患者の能力を医療者の自己満足で奪ってはいけない事を考えさせられました。

「これからの精神医療と南浜病院の構想」

精神医療は患者の権利擁護と長期入院防止の促進を図っています。当院では県内でいち早くスーパー救急を立ち上げる方向性を示しました。急性期患者が早期に退院し地域で暮らせるよう体制を整える必要があります。患者の地域移行が進むよう地域、関係機関と連携を図って行く事が大切と話がありました。

「ケースレポート発表会」

1年間の関わりのまとめとして、各部署の特色がわかる発表会でした。初心を忘れずに今後の業務に生かせる内容が多数でした。

「院内研究発表会」

研究を通して職に対する意識・倫理観・質の向上を目指しています。また、情報共有により業務の円滑化・連携の強化を図り、より質の高い安全な医療を提供することを目的としています。

「第１回プリセプター研修」

はじめてプリセプターとなったスタッフには制度の導入ができ、過去に経験のあるスタッフには再認識の機会となりました。今年度よりプリセプティの評価表が変更になり、運用方法について質問、意見が多くよせられました。

「電話対応　業務改善委員会」

一般的な電話マナーを基本に、相手先に不快感・不信感を与えることの無いよう、また、個人情報の漏えい防止に留意してロールプレイを行いました。

「新規採用者１ヵ月目研修」

精神保健福祉法の基本的な考え方から、実際の経験を踏まえての話しがあり、大変興味深い内容でした。また、精神病薬の効果と取り扱いについて、作用と副作用等の詳しい説明の講義もあり、今後のケアに役立たつ研修でした。

「アシスタント研修」

フィジカルアセスメントや病気の理解・看護の基本的な関わりを学び、安全に事故なく業務ができるよう研修を行いました。事故事例の振り返りや理想の対応など、グループワーク方式で話し合い、普段感じているストレスや難しい対応についても情報共有できました。

「行動制限に関しての理解を深める　身体拘束の手技について再確認し、制御方法を学ぶ　　行動制限最小化委員会」

始めに隔離・拘束の適応や注意・変更・観察点・手続きの説明があり、その後、拘束の実技を行いました。デモンストレーションでは、なぜこの部位に拘束が必要か実際に説明を受けながら体験し、活発な意見交換を行いました。今後、拘束を行う際、不安や苦痛を理解した上で安全に拘束を行える講義内容でした。

院内研究発表・研修

「インシデント・アクシデントレポート（前年度対比）　医療安全対策委員会」

１年間のインシデント・アクシデントを時間帯や発生件数、病棟別等、様々な視点で分析を行い、傾向と課題の説明がありました。殆どの事案はヒューマンエラーによるものと考えられますが、ヒューマンエラーは事故の原因ではなくシステム内部に潜む問題の結果として捉え、内部要因を明らかにし防止対策に役立てて行きたいです。

「第２回プリセプター研修」

事例より、統合失調症患者や精神疾患の理解を深めることができました。グループワークでは情報交換と困った事に対しての対策を話し合うことができました。

「拡大ケース検討会（３階病棟）」

困難事例を他職種で情報共有し、検討することで解決の糸口を見つけています。また、全職員を対象とし、学びの場にもしています。検討会では対象者がどのような性格なのか、発達段階で何が問題なのかなど、活発な意見が聞かれました。

「新規採用者３ヵ月目研修」

３ヵ月間の自身の振り返りや、問題解決能力を高める危険予知トレーニングを行いました。グループワークでは活発な発言があり、有意義な時間を過ごせました。

「嘔吐物処理について　院内感染防止対策委員会」

講師：株式会社バイタルネット　機器新潟チーム西山・中村機器診断薬部員

嘔吐物処理セットについて正しい防具の着用、吐物処理、ゴミ箱までの処理手順を学びました。実際にセットの着脱を行うことで一連の流れがイメージでき、使用手順を覚えることができました。感染拡大を防止し、清掃の徹底を行いたいです。

「移乗・移動に際して
腰痛予防の知識、考え方を習得する
褥瘡対策委員会」

国の腰痛予防指針から始まり、普段自分達が腰痛予防でどのような所に気をつけているかを話し合いました。また、他施設での対策も共有しました。

「認知症のBPSDとせん妄について　副院長講演」

ござれやネットにおいて好評であった認知症のBPSDとせん妄について、BPSDの症状と基本的な対応方法、当院におけるBPSDに対する治療の実際について講義がありました。基底となる認知症の特性や患者本人の自尊心、心理社会的背景など様々な要因を考慮する必要があり、家族や病院・施設のどこか一カ所で抱え込むものではなく、地域の連携・協力が重要との説明がありました。

「人権擁護」

講師：新潟刑務所処遇部企画部門（教育）法務教官
田村　勝弘 教育専門官

刑務所に勤務している方の話を聞くことで、矯正施設としての現状をイメージすることができました。精神科病院と刑務所といったように、同じ閉鎖的環境での人権擁護を扱う職員として興味をかきたてられる内容でした。

「退院支援委員会」

講師：新潟市障がい者基幹相談支援センター東
渡邊　賢一 相談員

障害者総合支援法から障がい福祉サービスの全体像についての講義がありました。また、新潟市発行のガイドブックを使用し、北区における障がい福祉サービスについて各事業所の特性についても説明して頂きました。

院内研究発表・研修

「第３回プリセプター研修」
プリセプター６ヶ月を振り返って活動内容を共有し、グループディスカッションでは、今後ケースレポートの指導や助言について意見を交わしました。

「新規採用者６ヵ月目研修」
医療安全では人間はエラーをする生き物と捉え、人間の特性を踏まえた上で、安全に働くことについて講義がありました。実際に起きた事例から事故を起こす可能性が誰でもあることについて学びました。また、救助袋の体験では全員が体験しました。

「包括的暴力防止プログラム（CVPPP）医療安全対策委員会」
暴力を起こす側の因子、暴力を受けやすい状態についての説明を受けました。実践としてブレイクアウエイとチームテクニクスを行いましたが、左右の手の使い方など、慣れるまで時間を要し、実践に活かすには更なる練習が必要だと感じました。

「第15回SSTリーダー養成研修（社会生活技能訓練）」
３．４年目の入職者を中心とした多職種14名が参加しました。認知行動療法と社会学習理論を基盤にした支援方法の一つであるSSTの基礎理論と実際を、院長をはじめとする専門スタッフより、演習とシナリオロールプレイを通じて学んでいます。

「急性期病棟開設にあたって
～今何をなすべきか～」
精神科救急病棟の開設を目前に控え、これまでの歩みから現在の取り組みについて話しがありました。病棟機能の方向性として、うつ病圏の急性期治療病棟への移行や、一部認知症ユニットを設けるなど具体的な説明もありました。倫理観をしっかり持つ事が、自信や仕事へのやりがいに繋がることを学びました。

「拡大ケース検討会（１階北病棟）」

長期入院している困難事例のケースで、県立医療センタースタッフからも貴重な意見が挙がり、活発な意見交換が交わされました。今後の関わりの中で本人が興味のあること、現在できている事に着目し、関わっていくことが大切であることを感じました。様々な職種の視点で対象者を多角的に捉える事が出来、充実したカンファレンスになりました。

「車椅子座位時の褥瘡発生を防ぐための知識を持つ褥瘡対策委員会」

シーティングにおけるポジショニングについて説明がありました。患者に負担なく褥瘡対策を行えるよう、環境整備を進めて行きたいです。

「ワクチンの製造株の傾向と副反応感染拡大防止対策についてICT委員会」

インフルエンザワクチンの基礎知識を学び、発生後は速やかに感染拡大の防止に繋がる内容の講義を行いました。

「精神保健福祉法改正点について行動制限最小化委員会」

医療保護入院、隔離・身体拘束の実施、外泊外出の留意点を確認しました。研修開始前から研修終了までの時間、職員を抑制した状態にし、その状況を観察してからグループワークを行いました。実際長時間の抑制をしている職員を見ながらの話し合いは、抑制に対しリアルに感じることができ、相手の立場になって考えることができました。

「退院支援委員会」

長期入院者の退院支援の実績報告、困難事例の振り返りから今後のアプローチを再検討しました。また、長期入院経験者から入院経験談、病院スタッフに求める支援等について話しがありました。

「精神科救急病棟の取り組み」

講師：三枚橋病院　村上忠病院長・釘宮健一看護主任

精神科救急病棟の取り組みに関して講演をして頂きました。救急病棟へ移行した際の苦労や工夫した点、また多職種連携の方法など、精神科救急病棟が間近に迫ってきている当院にとって、大変参考となる内容でした。

「平成28年度構想」

平成28年度構想について後藤院長より話がありました。精神科救急病棟の課題、長期入院者の地域移行・地域定着支援、倫理の向上といった内容に加え、今後の南浜病院の役割と方向性に関して、全職員が共通の認識を持てる大変良い機会となりました。